



成田ロータリークラブ 週報



国際ロータリー2015～16 年度会長 K.R. ラビンドラン

第 2681 回例会 平成 27 年 11 月 20 日(金)

- ◇ 点 鐘 佐瀬 和年 会長
- ◇ ロータリーソング 我らの生業
- ◇ 四つのテスト 川島 利昭 会員
- ◇ ニコニコボックス



小宮山 四郎 会員: 政府が選ぶ国家戦略特区として成田が選ばれました。その中のエアポート構想の中に成田市場を利用して輸出の拠点基地にしたらどうだということで、推進協議会が立ち上がり、役員で1年間協議してまいりました。申請から検疫までワンストップで荷物を空港に持ち込み、(そのターゲットを今回はイギリスに絞り)、荷物と一緒にロンドンへ行ってきました。ロンドンでは、日本から持って行きました農産物をジャパンセンターという日本商品を売っているところがあるのですが、そこで販売をしてきました。それから三日目にはイギリスの大使館で現地のメディアや料理関係の方々に集まっていただき、レセプションで成田の農産物の PR をしてきました。非常に強行軍でしたが、実は出発する前に咳が出て、咳をする度にお腹が痛くなり大丈夫かと心配になり橘先生に電話したところ、すぐ来なさいということで薬をいただき、お陰様でなんとか無事に終了することができました。今回は実証実験の一つの形でしたから、色々輸入規制の問題やこれからクリアしなければならない部分がかかり残っていますが、現地の人たちの反応は非常に好評でした。特にフルーツについては日本のフルーツに飢えているのだという話も直接いただきました。これからなんとか成田市場がワンストップで輸出できるような形ができていけば、成田も違った形で進んでいけるのではないかと感じて戻ってまいりました。



堀口 路加 会員: 11月6日から9日の新モンゴル高専視察旅行にあたり、成田ロータリークラブからのご支援をいただきありがとうございました。おかげさまで無事に帰国し、体調を崩すこともありませんでした。本日の国際奉仕委員会で詳細を報告させていただき、又、来週の週報に掲載いただくように準備する予定です。今日は南日会員の卓話もありますのでそちらに時間をできるだけお譲りする意味もあってお礼方々ニコニコいたします。

小川 賢 会員、深堀 伸之 会員、高橋 晋 会員:

・15日の明治大学の学生によるマンドリンコンサートは会員の皆様に多数ご来場いただき、また広告をいただきありがとうございました。お陰様で無事終了いたしました。会場にお

見えになった皆様にも非常に満足していただき、若さと活気をいただいたとおっしゃっていただきました。明治のマンドリンは 100 年の歴史と申しますが、出場した生徒たちは、半年から 3 ヶ月半しかマンドリン部に属しておりません。しかし、やったことは本当に素晴らしい演奏で、前日は定期演奏会が東京であり 2 度公演したそうです。それから翌日成田に午前 10 時に参りまして、簡単な昼食を済ませ、4 時半までリハーサルの連続。そして 2 時間半の大熱演でした。マンドリンクラブのメンバーには 43 人も来ていただき、ステージが狭く緞帳がおりなかったというハプニングもありましたが、ご協力、ありがとうございました。

- ・ 広告、チケットなどで、皆様にご協力いただきありがとうございました。
- ・ 滞りなくマンドリンコンサートを行うことができました。皆様のお蔭です。ありがとうございました。会場には 700 名くらいの方にご来場いただき、大盛況でした。ちなみに再来年もやりますので宜しくお願いいたします。



小寺 真澄 会員: 11 月 18 日、私が構成委員長を務めさせていただいております千葉県消防設備協会、及び協同組合の次世代を育成するというテーマにおいて第 1 回目の講習会を企画いたしました。今回どのようなことを講習しようかとみんなで相談したのですが、次世代を育成するというテーマから経営者を育てなければいけないということで、決算書の読み方というテーマで企画しました。当クラブの遠藤先生の多大なる協力と、当日の講師を

快諾していただき、盛況に終わることができました。受講者の方には次回はいつか、懇親会の企画もということで大変好評をいただきました。これもひとえに遠藤先生の熱弁による講演のお蔭かと思えます。それに対して感謝を込めニコニコいたします。



音花 昭二 会員: 先週の歓迎例会につきまして、所用で欠席し誠に申し訳ありませんでした。私自身、本当に残念でありました。実はその前日の木曜日、音花といえば「元気だけが取り柄」でございますが、高熱でフラフラになってしまいまして、橘先生にお電話して休診日にもかかわらず診て頂きました。当日夜は神栖の大事なお客様との会食も控えており、一時は 39℃以上熱が上がりが大ピンチだったのですが、先生のお蔭で何とか対応することが

でき、翌日の本社の大事な会議も欠席せずに済みました。本当に助かりました。先生のご厚意に感謝申し上げてニコニコさせていただきます。ありがとうございました。

◇ 会長挨拶

佐瀬 和年 会長

本日例会前に行われた、55周年記念事業の事について申し上げます。実行委員会を急遽、来週の金曜日27日例会前の10時から開催いたします。これからお名前をお呼び致します方は、10時までに例会場へご参集下さい。

矢島紀昭会員、長原正夫会員、本宮昌則会員、諸岡正徳会員、八田光雄会員、後藤敦会員、杉浦健会員、滝澤尚二会員、飯田正雄会員、吉田稔会員、黒須優子事務局員。(株)エリート情報社より社員さん一名。記念行事のおおまかな説明を会長幹事より、述べさせていただきますので、宜しくご協力お願い申し上げます。



◇ 委嘱状授与

・RLI 実行委員会委員

設楽正行 会員、石橋菊太郎 会員、佐藤英雄 会員
佐瀬和年 会長

・2015-16年度国際ロータリー2790地区

公益財団法人ロータリー米山記念奨学生選考面接官
堀口路加 会員



◇ 表彰

・ポールハリスフェローピン

小寺真澄 会員

・米山功労者

7回 小宮山四郎 会員

9回 石川憲弘 会員

4回 佐久間高直 会員



◇ 委員会報告

・会員増強・退会防止委員会

小柳 政和 リーダー

先日、平山委員長の方から増強紹介カードというのをお配りさせていただきました。27日までに事務局に提出ということでお願いしておりましたが、受付のところに箱を用意させていただきましたので、ご協力よろしくお願ひ致します。



・広報委員会

諸岡 正徳 リーダー

記事紹介縦組み64ページ、「友愛の広場」時折聞こえる天の声
笛吹ロータリークラブの植松会員の記事が掲載されております。
成長と改革。考えさせられる内容でしたので、是非皆様もご一読ください。またロータリーマークについての紹介もございますので、こちらも併せてお読みいただければと思います。本日、例会終了後、広報委員会が開催されますので、ご参加よろしくお願ひいたします。



・石川 憲弘 会長エレクト

ガバナーエレクト事務所より「2016-17年度 地区委員長並びに委員推薦のお願い」が来ております。自薦他薦問いませんので、石川までご連絡ください。



・社会奉仕 佐藤 英雄 リーダー

例会終了後、委員会を開催いたします。



・国際奉仕 音花 昭二 リーダー

国際奉仕委員会から連絡させていただきます。改めまして、先般は、モンゴル視察ということで、本来であれば国際奉仕リーダーの私が行かねばならないところ、佐瀬会長、堀口会員、平山会員にご対応頂き誠にありがとうございました。



無事にご帰国頂いてから感想もお寄せ頂いており、平山会員におかれましては、先週ニコニコでもお話し頂きましたが、本日ご欠席ということで改めてレポートもお預かりさせて頂いております。

今回、平山会員のご尽力でご協力会社様にお働きかけ頂き、大変高価な機器をご提供頂きました。訪問の際にお持ち頂くことができ、先方も大変お喜びになったということで、本当に素晴らしいお取組を有難うございました。

詳細はこの後の委員会にて、また堀口会員にも発表のご準備を頂いておりますので、ご参集方宜しくお願い致します。

《新モンゴル高専視察報告》

堀口 路加

はじめにこの度の新モンゴル高専視察にあたり、成田ロータリークラブからのご支援をいただいたことにお礼を申し上げます。

今回の視察旅行を5分30秒の動画に編集したものを用意しましたので、まずはそれをご覧いただきますと言葉で説明する以上の雰囲気は伝わるものと思います。

モンゴルの人口は約290万、そのうち約130万人がウランバートルに暮らしているといわれます。新モンゴル高専のあるウランバートルは、緯度で言えば樺太南部と同じような位置にあり、尚且つ1400メートルほどの高地にあり、世界で最も寒い首都の一つと言われています。

ちょうど私たちが出発する日にはマイナス17度くらいまで冷え込んでいたそうです。

今回、私のモンゴル訪問の目的は2つありました。

- 1) 成田ロータリークラブが今後モンゴル高専を支援するための現地視察と支援物品についての打ち合わせ。
- 2) 地区米山記念奨学委員会として来年2月の地区大会にシルネン君を招聘するための打ち合わせ。

今回、地区米山奨学委員会 山崎副委員長（佐原香取RC）にご一緒していただいたのは二つ目の目的のためでした。

実際に、モンゴルの国土に立って、学校を訪問するまで、私はブヤンの胸に秘められた思いやビジョン、モンゴル高専を彼が作ろうと本気で考えた動機が実はよくわからずにいました。

皆さんご承知の通り、モンゴルは資源国です。天然資源に依存するモンゴル経済は、資源収入は確かに増え、経済成長はしているものの、資源開発産業以外は未だ充分とは言えず、火力発電や自動車の排気ガスによる大気汚染、格差や貧困の問題、衛生的インフラ、交通インフラ等、経済インフラの未整備などの問題が多くあることを痛感しました。プリウスやランドクルーザーを始めとする日本車が驚くほどたくさん走ってはいましたが、その他のことを見渡してみると日本でいうと昭和30-40年代のような印象でしょうか。

建物が次々に建設されてはいるものの、中国・ロシア経済に左右される経済状況は脆弱で、考えられないような利率で借金を重ね、家や車を買っている状況はアメリカのサブプライム住宅ローン危機を彷彿とさせるようなバブル末期の印象すら受けました。

こうしたなかでブヤンが校長を務める高専をなぜ支援する必要があるのかについて共通認識を構築していくことがとても大切だと考えます。

まだ私も未消化ですからうまくまとめられませんが、ブヤンたちの新モンゴル高専は、資源を生かした新たな技術、産業をいかに生み出し育てていくかということにつながっています。そして資源国パラドックスに陥ることなく、中国・ロシア経済に依存した現在の状況からのモンゴル経済の自立につなげるというビジョンが彼の頭の中にあるように感じました。

教育はお金がかかります。そして教育を受けた学生が一人前の評価を得るまでには時間がかかります。増加した資源収入が必ずしもこうした教育に投下されているわけではない状況の中では本当に支援が必要なのだと思います。

夏にブヤンが成田ロータリークラブを訪問してくれた時に必要な物品リストは提示されました。その中からまず中古パソコンを送るというのも一つかもしれませんが、彼らの求めていることは、ブヤン自身から聞いたことですが、高専の3年生以降に本格的に専門を教えるための教科書がモンゴルにはない、日本の教科書を翻訳して自分たち独自の教科書をつくるのが喫緊の課題だということです。専門の教科書の翻訳・編纂をどうやって支援できるか、これは重要課題だと感じました。

施設設備は、必ずしも日本の高専レベルと比較する必要はないかもしれませんが、ものづくりというのは何もないところから作り出すというのが本質的なあり方につながるのかもしれませんが。しかしながら、実際に視察してみると、専門教育に必要な機械や設備が本当はないという状況がわかりました。日本の高専レベルどころか、もしかしたら工業高校にも及ばない状況ですから、継続的に機械・器具・工具を援助していくことは必要かと思えます。

また、学校というのは開設した1年目から、一年ごとに学生生徒数が増えていきます。高専の場合、5年かけて各学年の学生生徒が全て揃います。そして卒業生が出るとようやく完成となるわけです。ですから完成年度までの援助のあり方と、卒業生を出して以降の援助のあり方は自ずと変わってきて良いはずですが。成田ロータリークラブが継続的に支援するという年限も卒業生が出る時期までのあと3年半が一つの区切りになるかと思えます。その後の援助のあり方は学校も軌道に乗ってくれば変わってくるはずですが。

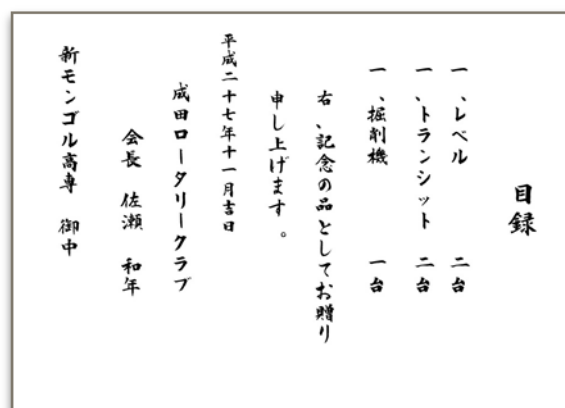
これらのことを検討し、構想化していくには成田ロータリークラブのメンバーの様々な

知識、経験、バックグラウンドを知恵にまとめて具体化することができればきっと彼らの力になれると感じました。

《新モンゴル高専支援のための視察を終えて》

平山 秀樹

皆様のご支援のお陰で9日、無事帰国しました。今回、成田RCが支援した米山奨学生であったシルネン・ブヤンジャルガルさんが新モンゴル高専の校長になられたということで、会長の決断のもと、参加させていただきました。父、金吾が生前ブヤンさんと親しくさせていただいていたことも参加の大きな理由でした。新モンゴル高専では、大変歓迎を受けました。弊社の協力業者さんである、千葉測器さん、シー・エス・ランバーさんから協力いただいたレベル、トランシットを喜んでもらえました。



高等専門学校は、後期中等教育段階を包含する5年制の高等教育機関と位置付けられている日本の学校。一般には高専と略される。学校教育法を根拠とし「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成する」ことを目的とする一条校とされる。主に中学校卒業程度を入学資格とし、修業年限5年（商船学科のみ5年6か月）間の課程のもと、主に工学・技術系の専門教育を施すことによって、実践的技術者を養成することを目的にした教育機関である。

みなさま、高専をご存じでしょうか？

(Wikipedia より)

先日、たまたま視察で国立函館高専を見学しました。すごい設備でした。これなら物理、工学の基礎の座学から手を動かして実験し、物作りをする体験まで一直線につながる教育ができると確信しました。また、先生方も大変熱心でした。即戦力であり、手も動かせ、原理原則も教育されているということで、就職率100%だそうです。



函館高専の工作機械実習室。
この他にも実験施設も整っていました。

モンゴルは実は大変な資源国です。帰国してから調べた日経紙の記事によると「銅、石炭、鉄鉱石、金、ウラン、レアアースなど多様な資源を持つ『資源のデパート』」なのだそうです。ウランバートルは「草原の国」のイメージを覆すほど、多くの建物、住宅が建ち並んでいました。しかし、北はロシア、東は中国に囲まれていて、資源を輸出するにも、海がないためロシア、中国に出す、もしくは経由するしかありません。滞在中にも、何十、もしかすると百両編成かもしれない鉱物を運ぶ貨車をみました。ちなみに、国土は日本の4倍の面積で、人口は3百万人弱です。ブヤンさんによると、この資源国モンゴルで、いま最も足りないのは自国の技術者だとおっしゃっていました。資源国というどうしても、一

番「稼ぎの良い」鉱業に重点的に人的、ファイナンシャル的資源が集中してしまい、工業や、商業が発展しないという「資源国の豊富さのパラドックス」が一般に言われます。このパラドックスを乗り越え、また地政学的な弱い立場から脱却するためにはどうしても、独自の技術者を育成することが不可欠だとブヤン校長はおっしゃいます。技術者の育成が自分が父親から13才の時に託された使命だとまでおっしゃっていました。

現地の高専の生徒さんたちは、日本語もお上手でした。高専を含む新モンゴル学園の理事長、ジャンチブ・ガルバドラッハさんも、元ロータリー米山奨学生だそうです。このためか、高専の教育課程に日本語の教育もあるのだそうです。懇談のやりとりをされていて、モンゴ



懇談中の生徒さんたち



機器の贈呈

ルの高専生達の未来への夢や希望を感じました。何人かの生徒さんはぜひ米山奨学金をもらってブヤン校長のように日本へ留学したいとおっしゃっていました。

生徒さんたちから、大変な歓迎を受けました。中でもモンゴル独自の楽器の馬頭琴と、ホーミーと呼ばれる一人で和音を発生する歌の演奏が素晴らしかったです。聴いていて、モンゴルの平原を馬で行く情景が浮かびました。(動画 <http://bit.ly/1MuyPmB>)

正直、函館高専と新モンゴル高専を比べると、まだまだ足りないものばかりというのが実情です。すでに高校1年生、2年生が在学しています。実習の始まる4年時が開始されるこれからの1年あまりの間にそろえていかなければならないものがたくさんあります。滞在中話題となったのは、中古のパソコン、技術教科書の翻訳、ブヤン校長がリストアップした必要な機器などです。どこまでできるかわかりませんが、これは成田RCを超えて広く呼びかけていくべきプロジェクトではないかと感じてきました。

今回の視察を通じて感じたロータリーの友情と活動の広がりについては別途にここにこさせていただきます。週報をごらんください。今回のモンゴル高専視察で、素晴らしい体験、素晴らしい友情、素晴らしい国際奉仕活動を実感させていただくことができました。ご支援いただいた成田RCのみなさまに心から感謝いたします。

◇ 幹事報告 深堀 伸之 幹事

《回覧》

- ・各種出欠表
- ・週報 八街、富里ロータリークラブ
- ・鬼怒川水害見舞い御礼
- ・ハイライトよねやま188
- ・台風18号による洪水被害への義捐金 ご協力への御礼

《連絡》

- ・11月13日分週報訂正 平山会員のニコニコ
佐原RC山崎浩一会員→佐原香取RC山崎浩一会員
- ・11月27日10時より第1回55周年実行委員会開催予定
- ・国際大会登録のご案内
12月15日まで310米ドル
3月31日まで375米ドル
4月1日以後440米ドル



◇ 卓話

「私の職業観」

南日 隆男 会員／全日本空輸（株）

本日は卓話の時間をいただきましてありがとうございます。卓話のテーマを「私の職業観」とさせていただきますが、私自身、大学卒業後に全日空に入社して以来、33年間一筋でまいりましたので、どうしても会社内部での仕事観や大切にしてきた思いなどの話になることはお許しいただきたいと思えます。

最初に、全日空に入社することになった生い立ちなどについてお話させていただきたいと思えます。私は、富山県富山市の農村地に生まれ、地元の高校を卒業するまでほとんど富山を出たことがありませんでした。従って、近所の公立小学校・中学校を卒業して、一番近所の県立高校に入学しました。この高校は進学校で、その頃は国立大学の現役合格率全国1位などと言われ、東大や国立の医学部にもかなり多く現役合格するぐらいの進学校で私も理科系のクラスに入り、途中までは国立2期校の医学部を目指していました。

その後ですが、高校での成績も右肩下がりとなり、学年で半分以下ぐらいまで落ちていましたので、最終的には国立大学の工学部を目指していました。父親の仕事が建築関係だったので、土木工学を学んで建設関係の職業に就こうと思っていました。ただ、国立の前に受験慣れを含めて、東京のいくつかの私立の工学部を受験することにしました。すると、その受験の日程の合間にたまたま受けた私立の経済学部にも思わぬ合格しました。あとで国立も合格しましたが、ここはすぐに志を変更し、文系に転向しました。ここで人生1回目の予期せぬ進路選択をしました。

学生時代は初めての東京での下宿生活を満喫し、社会勉強の名の下に東京でしかできないアルバイトや遊びに精を出しました。ここでは学業もおろそかにしていたため、自分の



やりたい職業を見つけることもなく、漫然と就職活動に入り、その時代の人気であった大手商社や銀行などを受けて回りました。その時、偶然知り合った大学の富山県人会の先輩が全日空に勤務されていて、募集なしと思っていた全日空が10人ぐらいは募集するとの情報を教えてくれました。当時、航空会社といえばナショナルフラッグキャリアの日本航空のことであり約50名の募集をしていました。私は飛行機に乗ったこともなく、航空業界は全く考えもしていなかったのですが、ダメ元で受けるだけ受けてみたらと先輩に誘われ受験してみました。私のどこが気に入られたのかわかりませんが、3日間連続の面接で「田舎ものぶり」を発揮していたら瞬く間に最初に内定をもらいました。当時は国際線にも進出する計画もない国内線だけの中規模会社でしたので変わり者も採用しておこうということでした。結果的に人生2回目の予期せぬ進路選択をしました。

さて、最初の配属は初めての大阪にある伊丹空港の旅客部、そこで11年間空港現場での仕事を学びました。飛行機を安全に定時に飛ばすために、どれだけ多くの人が携わって、どんな思いが繋がっていいサービス品質が生み出されるのかを体感していました。まさに航空会社の原点です。今でも全日空の新入社員はまず空港現場に配属し、徹底的に航空会社の原点を学ぶ企業文化は変わっていません。

ここで、私の職業観に入る前に、会社の特徴的な点を前提としてお話しします。

一つ目は、全ては空港現場に集中している点です。

全日空には現在約15,000名の社員がいます。パイロット2,000名、客室乗務員7,000名、整備士2,000名、空港スタッフ2,000名、営業セールス1,000名、本社本部1,000名という構成になります。すなわち社員の90%は空港現場で働いています。この多くの職種で構成される空港現場をいかに掌握し運営するかがポイントとなります。

もう一つの特徴が、職種別組合になっているため、職種によって賃金・勤務といった労働条件が異なり、社内に見えない壁ができてしまう点です。

こうして日本中の空港で多様な職種が混ざり合っている中で、人を大切に、相互理解を深めて、日々の安全運航を守るために何をしていくかです。

私は、「三現主義」を最も大切にしています。製造業の多くの企業で実践されていることですが、「現場に足を運び、場を確認する」「現物を手にとり、物を確認する」そして、「現実を自分の目で見て、事実を知る」という行動を徹底しています。現場に働く14,000名のなるべく多くの職場に出向いて、どんな気持ちや思いをもって仕事をしているかの本音を引き出すことを大切にしています。現場で働く社員に会い、現場・現物・現実を確認するだけでなく、そこで働いている思いを聞き、現実の気持ち=本心を把握することが私の三現主義です。そして自分なりに分析して、職種横断的な横串のテーマを解決していくことが私の役割だと思っています。

次に私が大切にしていることは、「風通しのよい組織風土」です。様々な職種がお互いの壁を越えて日々の業務をしていますので、コミュニケーションが組織運営の要になります。普段からものが言い合える関係を築いておくことが重要です。

私ども航空会社は「安全」が絶対であります。安全のためには、お互いの力を合わせ、絶対にミスが許されないプロとしての仕事を完成させていくことが必要です。これを「アサーション活動」として推進しています。

全日空グループでのアサーションとは、「協調的に意見、指摘すること」と定義しています。具体的には、業務を通じて疑問や不安に感じたこと全てについて躊躇無くアサーシ

ョンする。そのアサーションには謙虚にかつ真摯に対応し、アサーションしてくれたことに感謝するというサイクルを回しています。こうして安全へのアプローチとして始まったアサーション活動ではありますが、今では空港現場で直接安全に関わらない職場までを含めて、全てのグループ会社へと展開し、コミュニケーション豊かな組織風土・文化を育てるツールとしています。ここで社内の安全川柳グランプリに選ばれた作品をご紹介します。

「なんでやねん、そのツッコミがアサーション」「アサーション、返す言葉はありがとう」

以上、「三現主義」と「風通しの良い組織風土」のために、日々率先垂範を重ねているつもりですが、実際の所はまだまだ不足があります。でも、現場に出歩いて頑張っている社員を見ると、新たな力が湧いてきます。

成田ロータリークラブに入会させていただいてから6ヶ月が経過しました。多くの諸先輩から刺激あるお話を聞かせていただき、大変勉強になっております。限られた期間しかロータリーの活動に参加できないわけですが、その中で自分の役割を果たせるよう頑張っておりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしく願いいたします。本日はご静聴ありがとうございました。

◇ 点 鐘 佐瀬 和年 会長

出席表

会員数	出席義務者数	出席数	欠席数	出席率	前回補正
63	62	43	19	69.35%	83.87%

MAKE UP CARD

氏 名	月 日	ク ラ ブ 名
佐瀬 和年、堀口 路加、平山 秀樹 各会員	11月6日～9日	モンゴル視察旅行
近藤 博貴 会員	11月18日	成田コスモポリタンロータリークラブ
小宮山 四郎 会員	11月20日	成田市国際交流協会 理事会
深堀 伸之、石川 憲弘、吉田 稔、諸岡 正徳、高橋 正 甲田 直弘 各会員	11月20日	クラブ広報委員会
佐瀬 和年、深堀 伸之、石橋 菊太郎、佐藤 英雄、齊藤 三智夫 音花 昭二、神崎 誠、設楽 正行、渡辺 孝、笹子 恵一 橋 昌孝、南日 隆男、小寺 真澄、菊地 貴、大澤 浩 平野 省二、角田 幸弘、小泉 英夫、成田 温、堀口 路加 村嶋 隆美 各会員	11月20日	奉仕プロジェクト委員会
石橋 菊太郎、設楽 正行、松田 泰長、諸岡 靖彦、神崎 誠 堀口 路加、平山 秀樹、齊藤 三智夫 各会員	11月21日	地区RLIパートII
近藤 博貴、石橋 菊太郎、橋 昌孝、大澤 浩一、佐久間 高直 吉田 稔、諸岡 正徳、川島 利昭、神崎 誠 各会員	11月25日	成田高校インターアクト クラブ例会

事務局 〒286-0127 成田市小菅 700
成田ビューホテル内
電話/FAX 0476-33-8786

例会場 成田ビューホテル
電話 0476-32-1111
例会日 金曜日 12:30
例会出欠連絡先(直通)
電話 0476-32-1192 FAX 0476-32-1078